

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立可児工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月1日(水)
- 3 開催場所 可児工業高校 同窓会館
- 4 参加者 委 員 大杉 守平 可児市中恵土自治連合会長
牛江 明美 可児市立図書館長
伊藤 由香里 元PTA役員
塚田 美奈子 元PTA役員
各務 眞弓 可児市多文化共生センター事務局長
藤田 幸夫 同窓会長
吉森 豊 PTA役員

学 校 側 中西 竜也 校長
鎌田 知子 事務長
庄司 幸宏 教頭
熊崎 俊介 教務主任
三輪 武 生徒指導主事
林 貴康 進路指導主事
安藤 達矢 工業部長

5 会議の概要

(1) 令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について

意見1：生徒数が減少していることにより入学志願者数が定員を割り込む高校が多くなっている。本校への入学希望者が増えるように、何か具体的な取組をしているか。
⇒中学校での進路説明会やオープンキャンパス、中学生一日体験入学などを実施して本校工業教育の特色や魅力を伝えるようにしている。

意見2：地域のコミュニティで学校を積極的にアピールし、本校の魅力を多くの方に認知してもらってはどうか。
⇒昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、公民館まつりなど自治体のイ

イベントが開催されなかった。今年度はコロナ以前のように各種イベントに参加して、工業高校ならではの様々な催し物を行うなどして本校を積極的にPRしたい。

意見3：今年度、可児市商工会議所は産業フェアの実施を予定している。多くの本校生徒に参加してもらい、地元企業を知る機会としてもらいたい。

意見4：授業評価アンケートについて、高校3年間で学習に対する生徒の評価がどのように変化するか分析してはどうか。教員の授業改善や生徒の満足度を高める上で有効だと考える。

(2) 本校からの説明に対する意見・提言

意見1：可児商工会議所では、「可児で働こうキャンペーン」を実施している。地域の発展のためにも地元で就職し活躍する人材を育ててほしい。

意見2：工業の専門性だけではなく人間性も高めようと、きめ細かい指導をしていることがよく理解できた。

意見3：可児市図書館にある郷土資料や可児市教育委員会などが作成した歴史や文化に関する刊行物などを積極的に活用して、「ふるさと教育」を推進してはどうか。

意見4：災害時は、「自助・共助・公助」の三原則によって対応しなければならないが、そうした対応の中において、特に若年層の力は大きい。学校では緊急時の対応としてAEDの使い方を生徒に指導したり、防災士の資格取得を勧めたりして、地域の安全に貢献する人材を育ててほしい。
⇒生徒には、命を守る訓練などを通じて、「自助・共助・公助」についての啓発をしている。また、一部の生徒を対象に、AEDの使い方や心肺蘇生法などを習得するための応急手当講習を実施している。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、本校の学校運営方針について、全委員より承認が得られた。
- ・委員からは地域社会との連携を強化し、地区唯一の工業高校としての特色や魅力を発信していくことの大切さが示された。今後、地域貢献活動も含め、地域の様々な行事や活動に積極的に参加することを検討していきたい。
- ・委員の意見から、地元の企業、関係機関と連携し、地域とともに生徒を育てるという視点を持つことの重要性を認識することができた。卒業後も、地元に残って地域社会に貢献する人材を多く輩出していくことが本校の大きな役割だと考える。